

授 業 改 善 プ ラ ン

地域名	東葛飾教育事務所	学校名	鎌ヶ谷市立第二中学校
-----	----------	-----	------------

1. 課題（これまでの全国学力・学習状況調査結果等から）

- 令和4年度の全国学力・学習状況調査の国語の平均正答率を見ると、選択式の正答率は千葉県・全国の平均をやや下回っており、短答式、記述式の正答率は共に全国平均正答率を下回っている。
- 「読書は好きですか」という質問や「1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」、「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」という質問について、肯定的な回答が千葉県・全国平均共に下回っている。

2. 取組のポイント（仮説、改善方法等）

- 国語の授業の中で、文章の書き方や文章を書く上での表現の工夫を指導し、自分の考えを他者を書いて伝える課題を設定することにより、目的に応じて自分の考えを書く能力が高まるだろう。

3. 具体的な実践

- 各学年の国語の授業において、文章構成の型や接続する語句などを繰り返し指導するとともに、記述をさせる際に対象や目的を明確にした文章を書くよう指導した。また、生徒が行う活動の例として教師見本を作成した。
- 単元の中に「自分の考えを書いたり、学習のまとめを自分の言葉で書き表す」活動を取り入れたり、定期テストにおいて短文での記述や作文の問題を設定したりした。また、直接書くことに抵抗感を抱いている生徒を想定し、市から貸与されているタブレット端末の文書作成ソフトを用いての記述活動も取り入れた。

4. 成果

- 朝読書を導入したことにより、生徒が文章に触れる機会が増加し、文章を読む速度が向上した。また、休み時間や昼休みなどの時間や給食の準備中などに読書する生徒の割合が増えた学級があった。
- 2学期末に国語の授業内で実施したアンケートの「今学期の授業を通してどのような力が身に付いたと思うか。」という質問において、「推薦文や内容をまとめる授業が多かったため、文章を素早く書く力が身に付いた」「自分の考えを書くのが多かったから文章能力は1学期に比べて上がった」など、身に付いた力の中に「書く」に関する内容を回答する生徒が3分の1程度いた。

◆担当指導主事から（東葛飾教育事務所 指導主事 木村 尚史）

- 目的に応じて自分の考えを書く力を育成するために、国語科を中心として熱心に研究に取り組んでいる。研究授業では、書く取組を充実させたりICTを効果的に活用したりするなど様々な工夫が見られた。特に、振り返りシートを活用することで、生徒の記述への抵抗感を軽減することにつながった。次年度は、相手意識や目的意識をもたせることの重要性に着目し、さらに研究を深めていくことをねらいとしている。